

県は、高浜原発再稼働の手順を12月中旬に完了しようと！

県実行委、12月中旬に署名提出要請



講演の平野治和先生

11月9日、道の駅「さかい」いねすホールで行われた放射線障害講演会で、参加者は、原発の持つ危険性を改めて痛感させられました。以下、概要を掲載します。

福島原発事故による放射線障害

講演 光陽生協クリニック院長 平野治和先生

- 10月15日現在今なお、福島の避難者12万6千人、震災関連死1782人、広域が居住不可（福井・坂井、あわら市、南越前町に匹敵）
- 10月15日、地下水から事故後最高のセシウム（対国基準の1017倍、同137ストロンチウム90、13万倍）。
- 労働組合結成（1981年）も弾圧つぶされる（81・7・2「福井」）、下請けが労組結成、「被
- 敦賀における甲状腺癌調査、外来で発見した甲状腺癌（平野治和、日本臨床内科医会誌00・6）、200名に1名の癌発見率。

- 若狭の予防的防護措置準備区域5キロに1万人、緊急時防護措置準備区域30キロに34万人。
- 「福島は広島にもチエルノブリにもならなかつた」高田純（13・12アペグル）
- 原発再稼働に反対する理
- リウム漏れる（96・4／11「福井」）、25年に1回と推計―内部資料。
- 核燃料施設で臨界事故（99・10／3「朝日」）、東海村で放射能漏れ、全国初のヨウ素剤販売、5年間で8万5千錠を全国配布、注文相次ぐ。
- 福島事故「人災は明らか」（国会事故調）、「あり得ることは起ころる。あり得ない」と思うことも起ころる」（政府事故調・畠村洋太郎）、「第二の福島が福井で起きない」という保証はない」（中鳥哲演）
- 懸賞は田母神氏の「かつての戦争は自存自衛、アジアの植民地解放の戦争だった」も最優秀賞に。福島の甲状腺線量は、 Chernobyl の 1 千万分の一から 1 万分の一以下と低い。
- 肥田舜太郎氏の「内部被曝」→福島や東北・関東の人達に、広島・長崎の人々が被ばくしたのと同じことがそのまま広範囲に起ころる」とが起きたと考へた方がむしろ自然です。
- 核が崩壊する際に放出される線量（ストロンチウム90半減期28・8年）、ヨウ素131（8日）、セシウム134（2年）、セシウム137（30年）。● 放射線は半減期の10倍の時間経過で1000分の1に減る。
- 放射線の直接効果＝遺伝子DNAを損傷・切断する。

12月中旬に署名提出要請、運動の一層の強化を！

川内原発の再稼働は、多くの鹿児島県民や国民の再稼働反対の要請を無視して進められました。しかし、高浜原発の再稼働に、反対の要請は極めて少ないそうです。「もう動かすな原発！」県民署名実行委員会は、

年末に署名集約予定だったのを早め、12月中旬に第一次集約し、県に提出要請することになりました。現在、県全体で4万を超えたところ、12月中旬集約には、何とか10万を越えたとしています。折も折、突然の解散総選挙と重なり、署名収集の勢いが鈍るのではないかと危惧されます。

選挙活動で忙しくなる活動家のみなさんも含めて、中1000筆を優に超え、南出さんが目標超過達成！

旬の集約めざして、これまでの取り組みを一層強化するよう、力を合わせて行こうではありませんか。その秘訣は、南出さん自身、気心のあつた同志的友人を全国に多数持っていることです。打てば響くと言いとしています。

私たちも、第一次集約をめざして、南出さんから元気をもらい、更なる可能性に挑戦しよう

24日13:49筆に達しました。南出さんの元気とバイタリティは大したものですね。南出さんは、「ここまで来て、次は2000筆来てから、次は2000筆せんか。」

